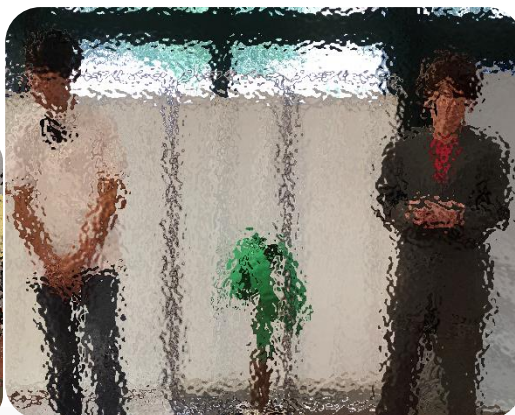
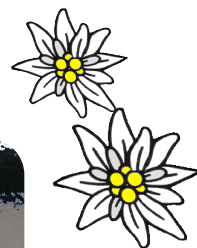




「なぜ英語劇？」



学習発表会の日が近づいています。英語劇の練習も真剣そのもの。子供たちにとって本格的な英語劇をするのは、これが初めてだと思います。海外では劇を通して語学や社会性を学ぶドラマ・メソッドという学習法があります。日本人にとってはあまり馴染みがないかもしれませんが、ここで少し紹介します。厳密にいうと、現在子供たちが挑戦しているのは「第2言語を使って実際に自分たちが演劇を試みる」バイア・メソッドという学習法です。バイア・メソッドを提唱したリチャード・バイアの考えを、引用します。

- ① 劇というのは、演技者間のコミュニケーション、または観客と演技者とのコミュニケーションが図られるべく、書かれたものである。
- ② 演技する学生たちは演技の練習をする過程でどうして、なぜそのことばを用いるのか理解し使っていく中で、その言語使用に自信をつけていく。
- ③ 劇は社会・文化的環境を作り出してくれる。また、劇は言語の必要性を教えてくれる。
- ④ 言語は文化であり、文化と切り離して言語を使用することはない。文化がもたらす思考、感覚、考え、行為を無視しては、言語習得は成り立たない。
- ⑤ 演技者でもある外国語学習者は、外国語学習と劇の練習の段階では、失敗を恐れることなくリラックスした中でも集中した学習環境、あるいは練習環境を必要とする。

先日、欠席した子供たちの代役をしたのですが「確かにそうだな」と共感できるところが多々ありました。そして子供たちがよく頑張っていることも実感できました。サウンド・オブ・ミュージックは舞台もイタリアに近く、実際にあった話なので、歴史的背景もしっかりしています。そのようなことも意識しながら、残り少ない日々、ますます素晴らしい発表目指して頑張っていきたいと思います！